

常務理事就任挨拶

(公社) 甲府市薬剤師会 安藤 和典

平素より甲府市薬剤師会の活動に対しましてご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。この度、令和6月の定時社員総会におきまして常務理事の役職を拝命いたしました安藤と申します。

近年、さまざまな分野でDX化が進展しております。ご存じのとおり、DXとは「Digital Transformation」の略称であり、私たち薬剤師薬局DXと称してデジタル技術を導入することで日常の薬剤師業務の効率化や自動化を図り、働きやすい環境を整備することを目的としております。その背景には、今後のさらなる高齢化社会に対応する薬剤師の人手不足や売上減少により薬剤師数が減少する事態、厚生労働省が推進する24時間体制の「かかりつけ薬剤師・薬局」への対応などの課題があると言われております。昨年のマイナンバーカードに健康保険証機能を紐づけたマイナ保険証の利用推進を皮切りに、本格的な取り組みが始まりました。調剤報酬にも医療DXを推進する体制加算が盛り込まれるなど、急速に進められております。私の薬局においても、実際に患者さんがマイナ保険証を利用した際の合意の上で得られた患者情報が保険業務や服薬指導にいかされ、業務が効率的に行われるケースが増えました。また、新型コロナウイルス感染症の流行時から始まったICTによるオンラインでの服薬指導やクラウド型電子薬歴を利用した在宅業務は、業務の効率化だけではなく薬剤師間における情報の共有も迅速化しました。さらに、患者さん側も調剤以外のDX化が進み、スマートフォンを利用した処方箋の受付やお薬手帳アプリの利用、電子マネーを用いたキャッシュレス決済も増えており、待ち時間も短縮されております。今はまだ少ない電子処方箋ですが、将来当たり前になる頃には、一層DX化が進み、介護を含めた保健医療業界全体の連携が迅速かつ効率的に行われる時代が訪れると考えられます。そのためにも、薬局や薬剤師はこうしたテクノロジーや法改正に素早く対応する必要があります。困った時に弊会にご加入していて良かった、助かったと感じていただけるよう、私自身微力ながら尽力してまいりますので、よろしくお願い申し上げます。



事務局就任挨拶

(公社) 甲府市薬剤師会 望月 幹也

皆さんこんにちは。7月1日付けで事務局長を拝命いたしました、望月幹也と申します。甲府市薬剤師会の事業運営に貢献できるよう努力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

私は、公務員として医療保険、年金保険の運営に携わった後、協会けんぽに勤務し、保険者として加入者に対する給付事業、健康増進事業などに努めてきました。

協会けんぽでは山梨を始め、富山、千葉、東京と様々な都県に勤務してまいりましたが、いずれの都県においても、国や自治体の会議において、薬剤師の先生方と席を同じくさせていただき、貴重な情報をいただき、重要なお助言をいただく機会に恵まれました。



また、医薬品の適正利用に関するシンポジウムの開催や、禁煙セミナーへの講師派遣など、私が携わった事業に対し非常に大きなご支援を賜りました。これまでの経験から、薬剤師の先生方、薬剤師会の皆様は、とても頼りになる存在として尊敬と親しみを感じておりました。

特に印象に残っているのは、千葉に勤務していた際に直接薬局を訪問し、薬剤師の先生方の生の声をお聞かせいただいたことです。ジェネリック医薬品について、現状の評価の一助としていただくことを目的に、協会けんぽのデータ分析を持参したのですが、多忙な業務の間を縫って真摯にご対応いただきました。

こうした経緯もあり、今回甲府市薬剤師会の事業運営に携わる機会をいただけたことは、大変ありがたく、名誉なことであると思っております。また、不遜なもの言いかもしれませんが、何か「縁」のようなものを感じています。

話は変わりますが、私の趣味は料理です。作ることも食べることも大好きです。そして、大好きな料理人がいます。その方は修業時代、厨房に入る機会に恵まれず、洗い場で毎日鍋を洗い続けたそうです。料理をする機会がないまま、鍋洗いの日々が二年も経過し、料理人になる夢も潰れたかと思っていた矢先、料理長に呼び出され、スイスの日本大使館の料理長を命じられたのです。料理長は、常により綺麗に、より早くと、山のような鍋を前に段取りをつけ、素早く丁寧に仕事をこなす彼の非凡な才能を見いだしていたのだそうです。その後、彼はヨーロッパで経験を積み、世界に名を知られる料理人になりました。彼は一見取るに足らない作業を、自身の能力を惜しみなく注ぎ込むことで価値のある仕事に変え、評価と信頼を築いたということです。

彼のような存在とは比べようもありませんが、私もどんな仕事にも真摯に向き合い、課題に取り組んで参ります。力不足ではありますが、どうぞよろしくお願いいたします。

甲府市薬剤師会救急調剤薬局の新管理薬剤師及び救急調剤薬局の現状について

(公社) 甲府市薬剤師会 救急調剤薬局 管理薬剤師 細野 里志

本年5月1日より、甲府市薬剤師会救急調剤薬局の管理薬剤師の任に就かせて頂きました細野里志と申します。「甲府市薬剤師会だより」に寄稿させていただくにあたり、私の簡単な自己紹介と救急調剤薬局の現状について報告させていただきます。



私は、昭和56年に大学を卒業し、製薬メーカーに6年間勤務し、地元に戻り、中規模病院に32年間勤務し、病院薬剤師業務、管理業務(医療安全管理者を併任)に従事し、定年退職後に小規模病院に6年間勤務し、病院薬剤師業務、医療安全業務に従事してまいりました。そして、救急調剤薬局にお世話になることになりました。今年、67歳になります。小学校中学年の孫がいる「じーじ」です。趣味はジョギングで、好きな言葉は「人を相手とせず、天を相手とせよ、天を相手として、己を尽くし、人を咎めず、わが誠の足らざることを尋ねべし」(西郷隆盛)です。

救急調剤薬局へは、約20年間、協力薬剤師として勤務させて頂きましたが、本格的な調剤薬局の勤務はありま

せん。甲府市薬剤師会の先生方、協力薬剤師の先生方にいろいろとご教授頂くこととなります。よろしくお願いいたします。

次に、救急調剤薬局の利用者の状況、電話による問い合わせの状況について報告させていただきます。

救急調剤薬局の利用者は減少傾向にありましたが、コロナ感染症の感染拡大収束後に著しく減少いたしました。コロナ感染症の感染拡大の教訓により、感染症に対する感染対策が大きくレベルアップし、良いことではありますが、感染症に罹患する小児が減っていると思われます。更に、令和6年5月17日より、山梨大学医学部附属病院において、小児科以外の初期救急医療センターが開設されたことも、利用者の著しい減少の大きな要因と考えられます。そのようなことから、救急調剤薬局の環境は厳しい状況です。状況改善の対応のため、本年5月より後発医薬品調剤体制加算の算定を行い、現在、後発医薬品調剤体制加算3を算定しています。また、平日の準夜勤務の薬剤師数は、10月末日まで管理薬剤師が勤務の日は1名で行っています。今後、状況改善のための対応を出来る限り行いたいと考えています。

電話による問い合わせ件数は徐々に増加しており、月に約30件程です。#8000(子ども医療相談)が認知されており、そちらの相談の中で薬に関する内容は、救急調剤薬局に相談するよう指導されています。さらに、一般の方の薬に関する問い合わせもあります。甲府市内の件数と甲府市外の件数を比較すると、甲府市外の件数が甲府市内の件数の約1.5倍になっています。また、小児と成人の件数を比較すると、小児の件数が成人の件数の約2倍になっています。問い合わせ内容は、誤服用(家族の薬を飲ませてしまったなど)、薬の飲み合わせ、服用間隔が主なものです。

病院において培った医療安全対策の中で、救急調剤薬局で活用できることがありましたら業務に導入していきたいと考えています。今後も利用者の皆様に安心して利用して頂ける薬局を目指し、スタッフ一同、力を合わせてまいりますので、市民の皆様もどうぞご安心してご利用ください。

☆委員会紹介☆ 薬学生受入対策委員会

(公社) 甲府市薬剤師会 薬学生受入対策委員会 委員長 飯野 智

薬学生受入対策委員会は、実務実習指導薬剤師を中心とした委員で構成されている委員会で、現在7名で運営しています。

我々の委員会は、実務実習受け入れを行っている指導薬剤師への支援を目的として、実習生を対象とした集合研修の開催、指導薬剤師や実務実習に興味のある薬剤師を対象とした研修会の開催などを行っています。委員会活動としては年4回の委員会を開催して委員会活動の計画、立案を行っています。また、委員には経験豊富な指導薬剤師がいることから、様々な情報を楽しく語り合いながら共有する機会となっています。

さて、甲府市内の調剤薬局による実務実習の受入実績ですが、令和7年度が1期5名、2期5名、3期2名となっており、毎年10名以上の学生の受け入れを続けてきています。山梨県には薬学部のある大学がない為、県内出身の実習生が実家から通える里帰り実習を行えるように、薬学生受入対策委員会では受け入れ体制を整えてきました。

実習期間中に受入施設で教えることの難しい分野に関しては、集合研修を行うことでその領域に特化した指



導薬剤師から指導を受けることができ、全ての領域で実習生が充実した実習を行う事を可能としています。

また、昨年度の主催研修会では指導薬剤師と指導薬剤師を志す薬剤師が集まり、実習の進め方や指導法、実習における懸念材料、問題点を語り合う場を作ったことで、普段指導において疑問に思っていた点などの情報の共有が問題の解決につながる会となりました。

私どもの委員会では、活動を通して山梨で行われる実務実習がより充実したものになり、将来山梨で薬剤師として活躍したいと思う学生が増えてくれる事を願っています。その為に委員一丸となって楽しく活動を行っていきたいと考えています。

最後になりますが、実習を行っている学生を見かけましたら、温かく見守っていただければ幸いです。

6・26ヤング街頭キャンペーン参加について

山梨県中北保健福祉事務所 次長 鈴木 一美

6月28日に開催いたしました「6・26 ヤング街頭キャンペーン」にご参加ありがとうございました。近年の薬物事犯は、覚せい剤及び大麻が大半を占めており、令和6年は、覚せい剤の検挙者が最も多かったが、大麻も依然として多い状況です。このうち大麻事犯の検挙者数は引き続き高い水準であり、「大麻乱用期」の渦中にあるといえます。とりわけ、大麻事犯の検挙人員の約7割が30歳未満の若年層であり、若年層における大麻の乱用拡大が問題となっております。今年5月に大麻草の成分入りと宣伝されたクッキーを喫食した甲府市の男子大学生が2階から飛び降りる事件が発生しました。このことから、若者が興味本位で安易に入手できるものにも危険があり、薬物使用の入り口になることがあります。薬物乱用のない地域社会としていくために、若者に対する普及啓発が重要です。このキャンペーンは、広がり続ける薬物乱用問題に世界の国々が一丸となって取り組むため、国連で決議された6月26日の「国際麻薬乱用撲滅デー」に併せて、全国各地で開催されています。県内でも、薬物乱用防止指導員の皆様方をはじめ、学生、関係団体など多くの方にご参加・ご協力をいただき、「ダメ。ゼッタイ。」を合言葉に県内5か所で一斉に実施させていただきました。また、発展途上国等で薬物乱用防止活動に従事している民間団体の活動を支える「国連支援募金」も併せて行いました。

☆イベント案内☆

- 2026年2月1日 中高生公開講座
- 3月1日 薬物乱用防止キャンペーン
- 3月15日 市民公開講座



イベントにつきましては当会ホームページをご覧ください。

いきいきサロン・・・甲府市薬剤師会では、甲府市内の高齢者学級やいきいきサロンが行っている学習会へ薬剤師講師を派遣します。質疑応答含めまして1時間程度「くすりとの上手なつきあい方」についてお話をさせていただき、医薬品の適正使用に関する普及啓発活動を行っています。

お申し込み方法 薬剤師講師派遣をご希望の高齢者学級・いきいきサロンのご担当者様は、甲府市薬剤師会事務局までお電話ください。その後お申込み用紙をご送付いたします。甲府市薬剤師会 事務局 TEL:055-236-5200